

特集 魔法の習慣12

序章

トップランナーたちの成長の習慣



魔法の習慣プロジェクトチーム

はじめに

各界の最前線で活躍しているトップランナーには、大切にしている信念や思考方法、判断基準があるはずだ。それらは中小企業診断士にとっても、大いに参考になるものと思われる。しかし、これらは見えにくく、取り入れるのは困難だ。

本特集では、業界の異なるトップランナー5名にインタビューを行い、その信念や思考方法、判断基準が表れた「習慣化された行動」に着目した。このコロナ禍においても、成長を続けられている秘訣を明らかにする。

第1章

常に釣り場に立つ「現場感」がアイデアを生む
——バスプロアングラー 川村 光大郎さん

7歳からバスフィッシングを始める。陸から魚を釣る「岸釣り」のスペシャリストとして、数々のトーナメントで受賞。2016年にルアーメーカー・Bottomup 株式会社を設立。バスプロとルアー開発者の2つの顔で、日本中にバスフィッシングの魅力を伝えている。

第2章

「楽」を極め、人とつながる
——書道家 武田 双雲さん

大学卒業後、大手通信会社に勤務。世の中を幸せにしたいという思いで独立、書の道を

歩む。代表作はNHK大河ドラマ「天地人」、世界遺産「平泉」の題字など。著書は50冊以上、近年は現代アーティストとしても活躍中。

第3章

他策なかりしを信ぜむと欲す

——和歌山県知事 仁坂 吉伸さん

1974年に通商産業省（現：経済産業省）に入省。経済産業省製造産業局次長、駐ブルネイ大使などを務め、地元の和歌山県に戻り、2006年12月の和歌山県知事選挙に初当選し、現在、4期目を務めている。

第4章

「一期一会」を大切に舞台を作る

——金剛流能楽師 宇高 竜成さん

金剛流能楽師の家に生まれ、3歳で初舞台。子方時代を経て、プロの能楽師となる。舞台活動の傍ら海外でもワークショップを行うなど、真に能楽を好きになってもらいたいという思いでその魅力を伝えている。現在、京都を中心に活動中。

第5章

感謝、PLAN、DO、SEE

——「お掃除お片づけ」のプロ 大津 たまみさん

シングルマザーとなり、子どもを育てながらの雇用環境の厳しさから「自分で自分を雇用しよう」と起業。「片づけ力」を広める清掃会社をはじめ、5つの組織の経営にかかわり、国内外で活躍する清掃片づけ業界のカリスマ的存在。